Ⅳ－６　小松島港本港地区等活性化計画におけるＰＩの推進事例について

運輸省第三港湾建設局 小松島港湾空港工事事務所　正会員　○ 後藤文男
徳島県土木部港湾空港整備局　港湾課　小泉　登
（財）港湾空間高度化センター　岡本英徳
（株）地域計画建築研究所 大阪事務所　竹野　潔
徳島大学工学部　正会員　山中英生

１．はじめに

最近の社会資本整備における特徴として、地域住民の身近な環境の整備・保全への関心の高まりから、住民参加型のまちづくりが広く行われるようになったことが挙げられる。パブリックインボルブメント（ＰＩ）を推進させる１つの手段として用いられるワークショップ（以下ＷＳと略記）も手法の開発と実践によりその有効性を認められつつある。本報告は小松島市の中心市街地にある本港地区の活性化を目的とした整備計画案づくりに行政主導ではなく、ＷＳを利用した地域主導による内発型の視点を取り入れた取り組みについて報告する。

２．背景と目的

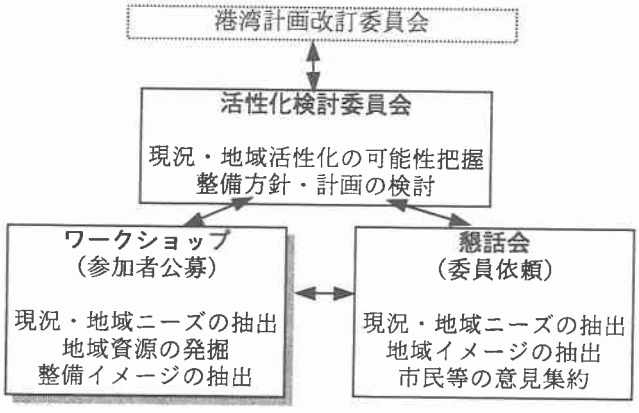
小松島港本港地区は、小松島市の中心市街地にあり、徳島県の玄関港として古くから栄えてきた。しかし、旧国鉄小松島港線の廃止や高速道路の整備など交通体系の再編が進み、平成１１年の南海フェリーの航路移転に伴い、本港地区を中心とした地域の活性化が課題となっている。こうした中で、小松島市、徳島県、運輸省による遊休化した港湾施設等の再利用を中心とした本港地区周辺の活性化計画の検討が平成１１年９月より始まった。活性化計画の整備計画案づくりの過程でＷＳを利用し、地元市民や経済団体をはじめ本港地区の整備に係わりを有する関係者の意向を踏まえた整備計画を策定することを目的とする。

３．調査の内容と枠組み

調査の推進は図－１の枠組みで行い、参加者を公募した住民ＷＳや有識者及び地元関係団体の意向を収集するため小松島市が設置した「小松島市本港地区等活性化懇話会」（以下懇話会と略記）における協議内容を基に、学識経験者や地元関係団体で構成される「小松島港本港地区等活性化調査検討委員会」が本港地区整備のコンセプトや整備の方向性を明らかにし、整備計画を策定する。そして策定された整備計画は、係わりのある部分については港湾計画へ反映させていくものとする。

４．住民ＷＳによるアイデアと提案

小松島ＷＳは平成１１年９月から平成１２年４月までの間に５回開催される予定で、３月末現在で４回開催されている。３つのテーマ①食べる・飲む・買い物をする、②海で遊ぶ、③憩う・癒す・文化に触れるに基づいて討議・検討され、次のようなハード・ソフトにわたるアイデアと提案が多く出された。



図－１　調査の枠組み

○本港地区の活性化に係るアイデア

・賑わいのある商業施設など（レストラン、ライブハウス、魚市場、輸入雑貨店、温泉施設等）、親水公園、ヨットハーバーなど

○本港地区とその隣接地区に係わるアイデア　・水辺のプロムナード 、ステーションパークと海辺をつなぐ緑道

〇水域に係わるアイデア　・船上レストラン、台船コンサート、釣り公園、ヨットの係留
〇背後地からのアクセスに係わるアイデア　・徳島市や国道５５バイパスからのアクセス道路の整備、海上アクセス（徳島や鳴門を結ぶ航路、水上タクシー、レンタルプレジャーボート等）
〇象徴的なもの、潤い（アメニティ）の向上に係るアイデア　・シンボル的なタワー、ライトアップ、景観、緑化

５．導入機能・導入施設絞り込みの視点と中核的な導入機能

これまでの小松島ＷＳによる検討を踏まえ小松島港本港地区に導入する機能・施設の中から活性化の起爆剤となりうる中核的な機能（施設）を絞り込むにあたって重視すべき視点としては、次の諸点が挙げられる。

１）利用者の想定

市外や県外を含めてできる限り幅広い人々に来訪してもらえるような魅力の創出がポイントである。

２）利用場面（シーン）の想定

平日の賑わいをどのように創出するかが課題となる。同時に、休日に市外から多くの人々を惹きつけることができるような中核的な機能の導入（ハード）と創意のある取り組み（ソフト）が重要である。

３）本港地区整備の視点

本港地区の整備を総合的に進めていくという視点から導入機能・施設を考えると次の諸点が重要である。

①地域性（小松島の地域資源を最大限に活用し、小松島らしい魅力を創出・発揮できるかどうか）
②吸引性（多くの人々を本港地区へ惹きつける強い（磁石）の機能を有しているかどうか）
③継続性（多くの人々にとって何度も来たくなるような魅力を持っているか）
④消費性（本港地区を訪れた人々が買い物や飲食等でお金を落として地元の経済を活性化させるか）
⑤採算性（民間施設であれば採算がとれるか、公共施設であっても維持管理程度の料金が確保できるか）

４）中核的な導入機能

１）～３）の視点から有力な導入機能・導入施設としては、飲食する機能（お洒落なレストラン）、物を買う機能（とれとれ魚市場・新鮮野菜市等）、海で遊ぶ機能（マリーナ等）、憩い・癒し機能（温泉施設等）が考えられる。

６．本港地区整備の基本的な考え方と整備計画

小松島ＷＳによる検討を踏まえ小松島港全体の港湾計画の視点や背後の中心市街地活性化計画等を踏まえて次の基本的な考え方に基づいて進められた。

①当面の現実的な取り組みと１０年～１５年といった中長期的視点の整合を図る。
②南海フェリーターミナルビルや旧合同庁舎などの既存ストックを最大限に活用する。
③港湾物流機能等との共生
④国道５５号線からのアクセス性の改善等により中心市街地及び背後地との一体的な整備を図る。
⑤市民の参加と企業・行政・専門家の協働

上記の基本的な考え方に基づいて現実的な視点に基づく計画案と中長期的視点に基づく将来構想がまとめられ、それぞれにつき、港湾物流エリア、活性化エリア、マリーナと関連エリア、港湾関連エリア、文化交流エリア、親水緑地エリアと水際のプロムナード、水域と係留施設の利用について整理された。

７．おわりに

今後、本港地区の整備計画を具体化していくためには、まず本計画のうち港湾計画との係わりのある部分については平成１３年に予定されている小松島港港湾計画の改訂に反映させていくことが必要である。

また、本港地区全体の活性化の取り組みを効果的に推進していくため、市民、企業、行政、専門家等からなる推進組織の創設について検討していくことが求められる。小松島港ＰＩの特徴は、公募型ＷＳと地元関係者による検討会、そして有識者を中心とした委員会の役割に応じた検討が行われたことであり、活性化の市民アイデアを計画に活かすためのパートナーシップを形づくることができたと考えられる。